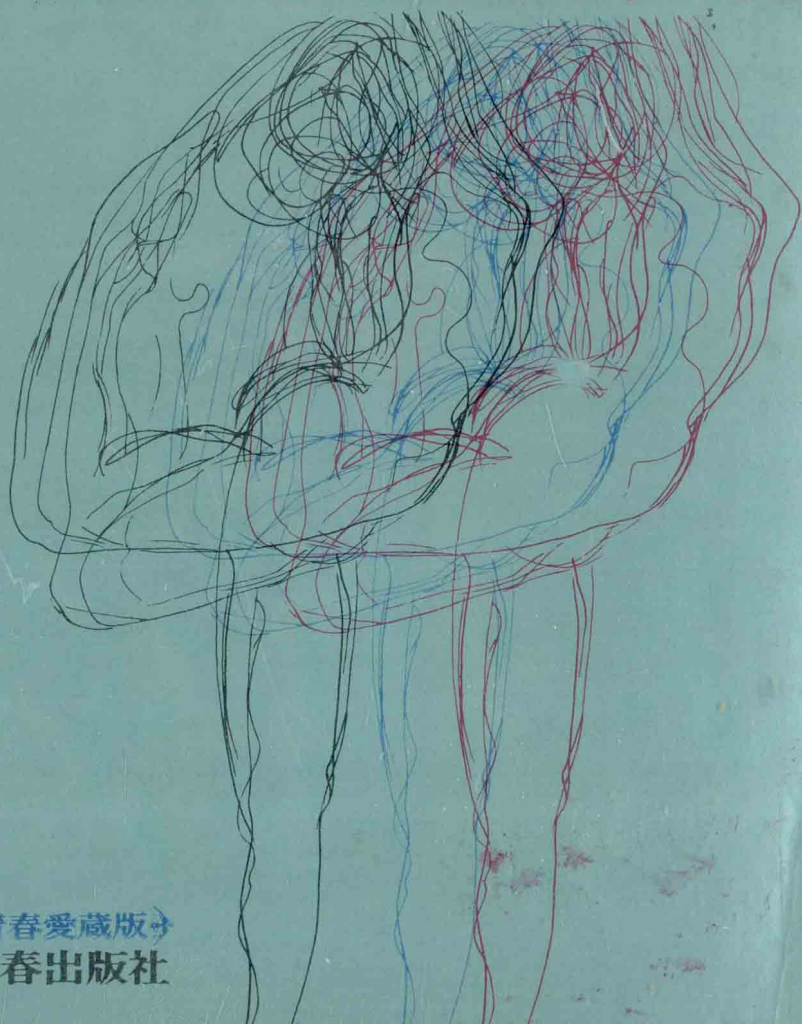


曾野綾子

いつも心の底に必要な決心

続 誰のために愛するか



青春愛蔵版
青春出版社

続誰のために愛するか

いつも心の底に必要な決心

青春出版社

著者紹介

昭和6年9月17日東京生まれ。聖心女子大学卒業後、評論家臼井吉見氏の推薦で第15次“新思潮”に参加。『遠来の客たち』が芥川賞候補となり文壇にデビューした。以後大型才女時代の一画をなし、次々と話題作を発表している。近作には『二十一歳の父』『生贄の鳥』『無名碑』『切りとられた時間』などがある。

また愛のブームを巻き起こし多くの読者の賞賛を得た前作『誰のために愛するか』は、ミリオンセラーとして記録を更新中である。

検印を廃す

続誰のために愛するか——いつも心の底に必要な決心

昭和四十六年十二月十一日 第五十刷
昭和四十六年十二月十日 第五十刷

著者 曾野綾子
発行者 小沢和一

発行所 株式会社 青春出版社

東京都新宿区若松町73番地
振替番号 東京九八六〇二番
TEL (203) 五一三一―五

★この本をお読みになったご意見ご感想を編集部までお寄せ頂ければ幸いです。

印刷・堀内印刷 製本・大口製本

0000-204900-3822

© PUBLISHING SEISHUN Co., Ltd. 1971



著者近影 撮影 田沼武能

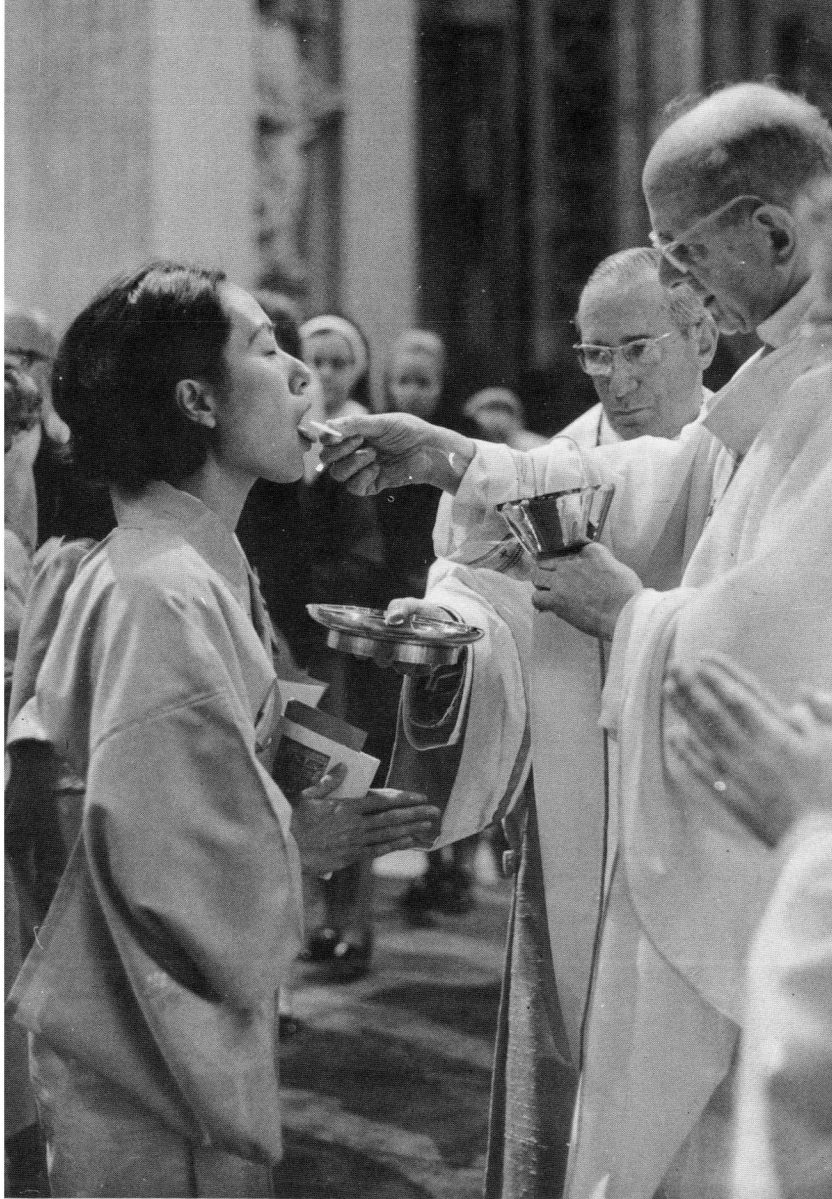
一人の人間を通して

世界を觀らと

いうことは限り

ふよく月窟であり
ふながら祝福の光
にみたまわっている

もかです 曾野綾子



1971年10月17日、マクシミリアノ・コルベ神父列福の式において、ローマ法王パウロ六世より聖体を受ける著者。

はじめに

或る肌寒い、雨の日に、私はアウシュヴィッツに行き、このエッセイの中にも書かれているコルベ神父という方が、一九四一年の夏、他人の身代りに処刑されることを申し出て、そこで遂に亡ったという小さな餓死刑室の窓の外に立った。私は心身ともに寒さに震えていた。水も食物も与えられず、裸でその部屋に投げこまれていた神父は、遂に二週間も死ぬことができず、そして最後に、薬殺のための注射器を持って入って来たナチスの親衛隊員を見たとき、こころもち腕をさし伸べるようにして、それを受けたのであった。

生ぬるい生活を愛し、一生、劇的なことなど起こらない平凡な生涯を送れることを渴望し、努力よりも安楽を、人生を深く見るよりも見えない愚かさの方がトクだと思い、微温湯につかったように生きられることを始終願っている私も、こうして、時々、人間が、生命を賭けて選ばねばならぬ瞬間のあることを思わせられて慄然とするのである。

人間の一生の意味が、たった一日、或いは一瞬の行為に凝縮されるような苛酷な事態が起こり得ることに対して、私たちは、その日のために心の奥底で用意をしなければならぬのだろうか。

「愛することは、愛を作り出す力であり、無能力であることは、愛を作る能力が無いことを意味している」というのはエルリッヒ・フロムの言葉だが、愛を作る能力を持つことは苦しく、時にはコルベ神父のように、そのために死ななければならなくなる。それでもなお、愛がなければ、人間はこの世を生きることにもならず、死を代償とするほどの快感——まともに言えば喜び——も得られないのである。

その深淵を彼方に予感することを故意に避け、そのような深淵はまったくないかのようには人生をのどかな風景と観ながら、身近かな出来事に心を捉われて暮すこと——それが、しかし平凡な私たちの生涯の上に与えられた神の優しさのように思う時もある。

曾野綾子

も
く
じ

はじめに……………5

I どんな愛にめぐり合いたいか……………15

1 もう、ひき返せなくなる時……………17

妻がすばらしい体験をするとき

しあわせが怖くなるとき

女が本能的に真剣になるとき

愛し合うことが不幸になるとき

男が本当に愛するとき

2 その流れに流されていいか……………29

相手の罠を探るとき

冒険への出発点に立つとき

一人の人間の一つを知るとき

ただ信じたがるとき

その深みを避けなければならぬとき

3 夫と妻が最も必要になる部分……………42

あて名もない結納をもらうとき

Ⅱ どんな歓びを希求するか……………61

娘が親に挨拶するとき
心の不思議に惑うとき
孤独という恐ろしい存在を考えるとき
理解し合えないかと希うとき
愛の存在を確かめるとき
その愛を肌で感じるとき

1 その人は何をなし得るひとか……………63

自分で決めなければならないとき
いやな夫と我慢して暮すとき
自分の中に哀しさを眩くとき

2 自分に関して目がくらむ瞬間……………73

“もし、あの人とだったら”と思うとき
“思いを残して死ぬ”と知ったとき
愚かしい執着から解放したいとき

3 どんな関係に生きているのだろうか……………84

Ⅲ どんな生き方が欲しいか…………… 91

その道を選んでしまったとき
他人の夫と生活する破目になるとき

1 一つを捨てる才気 93

夫を肉体的に生かし精神的に殺すとき

妻として決意するとき

同時に二つを完全に果たしたいとき

2 うまくいかなくなる夫と妻 103

妻に勉強させる夫を見るとき

悪妻を自覚する妻になるとき

受けとめる夫婦の方法が違ふとき

古女房の行き所が無くなるとき

3 姑おやと嫁こが陥る危険な心理 116

男が女たちをうまく操わづるとき

責任をもって年寄りとき合うとき

姑も嫁にとっても幸福になるとき

鈍感な人間が判断するとき

IV どんな存在を得たいか …………… 131

1 鏡の中に映し出される自分の姿 133

子供が非人間的な反応を示すとき

子供の人生を親が決めるとき

ただ簡単に信じてはならないとき

2 表裏のある人間になること 144

可能性を一生懸命ぶち壊すとき

輝くような貧乏を体験するとき

自分が支持の中にあるとき

母が、ただ黙して耐えるとき

人間の哀しさと優しさを知るとき

V どんな目的意識に生きたいか …………… 161

1 女が、弱さをはねのける意識 163

台所に女の怨恨がこもるとき

2 傷つくのが怖い、退屈が怖い

178

自分の姿をさらけ出すとき
自分を失えるものの美しさを見るとき
人間ひとり一人の個性に接するとき
心理的な暗示にかかるとき

3 愚かな自分を生きる能力

195

自分の引け目にゆがむとき
だらけた肉体に慄然となるとき
その生活を重いと感じるとき
退屈への恐怖を感じる時
いやでも意識の中におかねばならぬとき
女が辛さに生きるとき
まったく違った精神構造に出合ったとき
“女心”の心理を裏返すとき
女としての価値を考えると
精神的に他人を傷つけるとき

4 自分の内面に追いかけるもの

212

惜しものはないと言いながら思うとき
ひそやかなものに心を奪われるとき
人生の楽しみ方を知りたいとき
自分だけのことと考えたがるとき
美しいものを見つめる心を持つとき

章
扉
カ
ッ
ト
・
生
澤
朗